

2021 年度企業家研究フォーラム賞の選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員長

原 拓 志

選考の経緯

2021 年度企業家研究フォーラム賞の選考にあたって、著書の部では推薦のあった 7 作に寄贈図書の中から審査委員によって選ばれた 2 作を加えた計 9 作、論文の部では推薦のあった 1 論文に『企業家研究』第 17 号に掲載された 3 論文を加えた計 4 論文について、2 段階の審査、3 回の審査委員会議（第 1 回と第 3 回は Zoom 会議、第 2 回はメール審議）における丁寧かつ慎重な審議の結果として、下記の受賞者を決定した。なお、特別賞については推薦がなく、本年度は該当者なしとした。（敬称略）

著書の部

兒玉 公一郎（日本大学）著

『業界革新のダイナミズムーデジタル化と写真ビジネスの変革ー』

（白桃書房，2020 年 2 月 28 日）

授賞理由： デジタル・ミニラボにおけるイノベーションを詳細に記述・分析した研究であり、デジタル化という一般的な技術変化の特性を考えるうえでも有益な示唆を含んでいる。デジタル・ミニラボの開発者である富士フィルムと、それをいち早く大規模に導入したキタムラとのコラボレーションの過程、そして全国ラボ店が追随しデジタル・ミニラボを導入していった過程を、多数のインタビューと膨大な資料で明らかにした。また、その理論的意味付けにも取り組み、ゴミ箱モデルを援用して業界革新のダイナミズムにおける偶然性の介在に光を当てるなど、卓越した研究である。

論文の部

加藤 雅俊（関西学院大学）・Zhou Haibo〔周海波〕（Nottingham University Business School, University of Nottingham Ningbo, China）著

“Numerical labor flexibility and innovation outcomes of start-up firms: A panel data analysis.”
（*Technovation*, Vol. 69, January 2018, pages 15-27）.

授賞理由： 日本のスタートアップ企業における従業員の流動性とイノベーションの関係を、独自のアンケート調査に基づくパネルデータの分析によって、定量的に検証した研究で、両者が逆 U 字型の関係にあることを論証した。論旨構成も明確であり、国際的にもその学術的意義が認められた論文である。

